布哇中央學院出版部 編纂

新撰中等日本語讀本 中編上

LC
3167.5
H3C55
v.3

緒言

本書は當院中女學校第二學年（一般日本語學校の第八學年）用として編纂したのであります。

內容は傳記・教訓談・紀行文・通信文等、廣い範圍に亘つてをりますが、特に現代の教育思潮に鑒み、從來の教科書によく見るやうな理智偏重を排し、主として現代作家の優秀なる文學的作品中、年少學徒に感興の深いもの、若しくは其の實際生活に觸れたものを撰集することに意を注ぎました。それは申すまでもなく、語學教授の傍ら、常識の養成・情操の涵養・人格の陶冶に資せんが爲であります。

更に文體の上から見ますと、口語體の作品が最も多數を占めてをります。併し、文語體のものも尠くありません。又少數ではありますが、候文體のものも採錄してあります。文語體、殊に候文體の如き、將來追々自ら作る必要がなくなるに到るものといたしましても、少くとも之を讀んで理解し得るだけの知識は、現在に於ては無論のこと、將來に於ても、極めて必要であると信ずるからであります。要するに、この樣に種々な文體の作品を採錄いたしましたのも、材料を多方面に求めたのと同樣に、學徒の語學上の知識を偏狹ならしめぬやうにとの考慮に出でたのであります。

本書の教材は一學年用としては、その量多きに過ぎるともいへませう。教科書は是非初めから終りまで殘らず教へて仕舞はねばならぬものとすれば、多くの場合に於て、全くそれに相違ありません。

併し、編者は「教科書は一般の標準を示すに過ぎないもの」といふ見地で、本書を編纂したのでありますから、縱令本書を採用されたからといつても、教員諸氏は一々之に據らねばならぬといふ理由は毫もなく、又そのやうな事は編者の期待して居る所でもありません。それは、一口に同一學年と申しましても、學校により、又學年度により、生徒の學力・性向等も自ら異り、從つて教材もその時〳〵の場合により幾多の變更を要するからであります。畢竟、教材に餘裕を置いてあるのも、必要に應じ、之れが取捨撰擇に便し、以て同一教科書を幾多の學校の同一學年にも、或は孰れの年度の同一學年にも使用することの無理を緩和したいといふ趣意に外ならぬのであります。

又教材排列の順序の如きも、大體、生徒の語學の進度・思想發展の經路を標準としたのでありますが、是亦時と場合とにより、教員諸氏の任意に前後變更せられて然るべきであると思ひます。

編者は教材の撰集・加除改竄・排列等につき相當考慮を拂ひ、且つ專門家の閲讀を煩はしたのでありますが、本書はまだ〳〵完璧のものでない事は申すまでもなく、或はそれに近いものとさへいふことも出來ますまい。本書の出版に際し、聊か所懷の一端を述べ、併せて諸賢の垂教を懇願いたします。

昭和二年五月

布哇中央學院出版部

新撰中等日本語讀本　中編上

目次

第一課　日の出　國木田獨歩（一）
第二課　お日樣の船出　與謝野晶子（一四）
第三課　海峽物語　吉江孤雁（一六）
第四課　ロンドンだより　芳賀矢一（二一）
第五課　青雲の志　野邊地天馬（二七）
第六課　花の傳說
一　桃　女子新國文（三一）
二　紫苑
三　三色菫

第七課　日本の家庭　芳賀矢一（三七）
第八課　子を待つ心　正富汪洋（四二）
第九課　父の誕生日を祝して　女子新國文（四四）
第十課　我が幼時の家庭　小泉鐵（四七）
第十一課　歸省　藤岡作太郎（五三）
第十二課　樂しき我が家　「家庭と教育」所載の英詩の譯（五六）
第十三課　旅のおとづれ　吉村冬彦（五八）
一　ヴェニスから
二　ローマから
三　シャモニから
第十四課　太古の洪水　坪内逍遙（六四）

第十五課　洪水に惱む動物　横山又次郎（七二）
第十六課　火の河　科學文藝兒童讀本（七六）
第十七課　三人の希望　大隈重信（八四）
第十八課　無南和尚　相馬御風（八八）
第十九課　冬休日記　日記文範（九一）
第二十課　舊師に贈る　女子書簡文（九五）
第二十一課　晝顏　吉村冬彦（九七）
第二十二課　心ごゝろ　五十嵐力（一〇二）
第二十三課　鳥の愛情　飯島啓（一〇五）
第二十四課　螢　渡瀨庄三郎（一一一）
第二十五課　不思議な樂の音　五十嵐力（一一四）

第二十六課　熊狩　國文新選現代文抄（二八）
第二十七課　逸話三篇　（二三四）
一　ニュートンの健忘　雜誌「雄辯」所載の文による
二　ラーフォンテーヌの機智　和田垣謙三
三　アダムースミスの疎忽　藤村作
第二十八課　ラインの旅　保科孝一（二二八）
第二十九課　飛行機　與謝野晶子（二三五）
第三十課　爆彈下のパリ　吉江孤雁（二三七）
第三十一課　飛行士官　姉崎嘲風（二四一）
第三十二課　ベルリンだより　德富蘆花（二四九）
第三十三課　難破船　三浦修吾譯「愛の學校」の文による（二五四）

附錄
一　常用漢字表　（一）
二　常用略字表　（五）
三　宛字　（六）

目次終

作家略傳

國木田獨步　名は哲夫、文學者、明治四十一年歿、年三十八。

與謝野晶子　歌人鐵幹夫人、歌人、明治十年生。

吉江　孤雁　名は喬松、文藝評論家、早稲田大學教授、明治十三年生。

芳賀　矢一　文學博士、國文學者、東京帝國大學名譽教授、昭和二年歿、年六十四。

野邊地天馬　名は三右衛門、著述家、明治十八年生。

正富　汪洋　名は由太郎、詩人、明治十四年生。

小泉　鐵　慶應大學教授、明治十九年生。

藤岡作太郎　文學博士、國文學者、東京帝國大學助教授、明治四十三年歿、年四十一。

吉村　冬彥　本名寺田寅彥、理學博士、東京帝國大學教授。

坪內　逍遙　名は雄藏、文學博士、著述家、早稲田大學名譽教授、安政六年生。

横山又次郎　理學博士、東京帝國大學教授。

大隈　重信　侯爵、政治家、大正九年薨、年八十三。

相馬　御風　名は昌治、早稲田大學出身、文藝家。

五十嵐　力　文學博士、國文學者、早稲田大學教授、明治七年生。

飯島　啓　理學士、動物學者、學習院教授、明治元年生。

渡瀨庄三郎　理學博士、東京帝國大學教授、文久二年生。

和田垣謙三　法・文學博士、東京帝國大學教授、大正八年歿、年六十。

藤村　作　文學博士、國文學者、東京帝國大學教授。

保科　孝一　文學博士、國文學者、東京帝國大學教授。

姉崎　嘲風　名は正治、文學博士、哲學者、東京帝國大學教授、明治七年生。

德富　蘆花　名は健次郎、文學者、明治元年生。

三浦　修吾　教育者、文學者、大正九年歿、年四十五。

作者略傳終

と答へた。

救助艇は荒れだつ波を横ぎつて、暗い空の下を急いで行つた。本船に殘れるものは、もはや一人も聲を立てる者はなかつた。水はもう甲板の端を嘗めて居た。

マリオは俄に跪いて、手を合せ、目を天の方に注いだ。女の子は面を覆うた。再び頭を上げて海の上を見渡した時、船はもう見えなかつた。

三浦修吾譯「愛の學校」

（註）(1)マルタ。地中海の中央にある島。
(2)ネープルス。イタリヤの西部の都會。
(3)パレルモ。シシリー島の都會。

新撰中等日本語讀本　中編上　終

附錄

（一）常用漢字表　（千九百六十二字）　（臨時國語調査會決定）

【一】一丁七丈三上下不世丙並【丨】中【丶】丸主【ノ】久乏乘【乙】乙九乞也乳亂【亅】了事【二】二云互五井【亠】亡交京亭【人】人仁仇今介仕他付仙代令以仰仲件任企伊伏伐休伯伴伺似但位低住佐何余佛作使來例侍供依侮侯侵便係促俊俗保俠信修俳俵俸倉個倍倒候借倫假偉偏停健側偶傍傑備催働傳債傷傾僅像僚僞僧價儀億儉儒償優【儿】元兄充兆兇先光兌免兒兎【入】入内全兩【八】八公六共兵具典兼【冂】冊再【冖】冠【冫】冬冷凉凖凌凍凝【几】凡【凵】凶凸凹出【刀】刀刃分切刈刊刑列初判別利到制刷券刺刻則削前剛副割創劇劍劑【力】力功加劣助努効勅勇勉動勘務勝勞募勢勤勳勵勸【勹】勺匁包【匕】化北【匚】匹區【十】十千升午半卑卒卓協南博【卜】占【卩】印危却卵卷卽卿【厂】厄厘厚原【厶】去參【又】及友反叔取受叛【口】口古句叫召可叱史右司各合吉同名后吏吐向君囲園圓圖團【土】土在地坂均坊坐坑坪垂型垣埋城域執培基堀堂堅堤堪報場塔塗塚塵境墓墺增墨墮壁壇壓壞【士】士壯壹壽【夂】夏【夕】夕外多夜夢【大】大天太夫央失奇奉奏契奔奢奥奪奬奮【女】女奴好如妃妊妙妹妻妾姉始姑姓委姦姪姫姻姿威娘娯娠婚婦婿媒嫁嫉嫡嫌孃【子】子字存孝季孤孫

學【宀】宅宇守安完宗
官定宛宜客宣室宮宰
害宴家容宿寄密富寒
察寡寢實審寫寬寶
【寸】寸寺封射將專尉
尊尋對導【小】小少尙
【尢】就【尸】尺尼尾尿
局居屆屈屋展層履屬
【山】山岡岩岬岳岸峠
峯島峽崇崎崩嶮【巛】
川州巡巢【工】工巧巨
差【己】己【巾】市布帆
希帖帝帥師席帳帶常
帽幅幕幣【干】干平年
幸幹【幺】幻幼幾【广】
床序底店府度座庫庭
庶康廉廊廟廢廣廳

【廴】延廷建廻【廾】弄
弊【弋】式【弓】弓弔引
弘弟弱張强彈【彡】形
彩彫影【彳】役彼往征
待律後徐徑徒得從御
復循徵徵德徹【心】心
必忌忍志忘忙忠快念
忽怒思怠急性怨怪怯
恐恥恨恩恭息悅悔悟
患悲悼情惑惜惠惡惰
惱想愁愉意愚愛感慈
態慕慘慢慣慨慮慰慶
慾憂憐憚憲憶憾憤懇
應懲懷懸戀【戈】成我
戒戚戰戲戴【戶】戶戾
房所【手】手才打托扱
扶批承枝抑投抗折抱

抵押抽拂拍拒拓拔拘
拙招拜括拳拾持指振
捌捕捧捨掃授掌排掘
掛採探控推接提揚換
握揭揮援損搖搜摘携
摩撫擇擊操擔據擬擴
攝【支】支【攴】收改攻
放政故效敍敎敏救敗
敢散敬敵敷數整【文】
文【斗】斗料斜【斤】斤
斥斬新斷【方】方施旅
旋族旗【无】旣【日】日
旦旨早旬旭昇昌明易
昔星春昨是時晚晝普
景晴晶智暇暖暗暑暮
暴曆曇曜【曰】曲更書
曹曾替最會【月】月有

朋服朕朗望朝期【木】
木未末本札朱机朽杉
李材村杖束柿杯東松
板枕林枚果枝枯架柄
某染柔査柩柱柳栗校
株根格栽桃案桐桑桶
梅條梨梯械棄棋棒棚
棟森棺植楠業極榮構
概樂樋樓標樞模樣樹
橋機横橡檜檢櫻欄權
【欠】次欲款欺歌歎歐
歡【止】止正此步武歲
歷歸【歹】死歿殊殉殖
殘【殳】段殺殼殿毀
【毋】母每毒【比】比
【毛】毛毫【氏】氏民
【气】氣【水】水氷永汁

求汗汚江池決汽沈沒
沖沙河沸油治沼沿況
泉泊法波泣泥注泰泳
洋洗津洪洲活派流浦
浪浮浴海浸消涉液淑
淚淡淨淫深混清淺添
減渡溫測港渴游湖湧
湯源準溝溢溶溺滅滋
滑滯滴滿漁漂漆漏演
漕漠漢漫漸潔潛潮澤
激濁濃濕濟濫濱瀧灌
灣【火】火灰炎炊炎炭
烈烏無焰然煉煎煮煙
煤照煩熊熟熱燃燈燒
營燭爆爐【爪】爪爭爲
爵【父】父【片】片版牌
牒【牙】牙【牛】牛牧物

牲特犧【犬】犬犯狀狂
狐狩狹狼猛猫猶猿獄
獨獲獵獸獻【玄】玄率
【玉】玉王玩珍珠班現
球理琴【瓜】瓜【瓦】瓦
瓶【甘】甘甚【生】生產
甥【用】用【田】田由甲
申男町界畏畑畔畜畝
略番畫異留當疆【疋】
疋疎疏疑【疒】疫疲疾
病症痕痘痛痢療【癶】
登發【白】白百的皆皇
【皮】皮【皿】皿盆益盛
盜盟盡監盤【目】目盲
直相省眉看眞眠眺眼
着睡督睦瞭【矢】矢知
短【石】石砂砲破研硬

硯碁碎碑確磁磨礎
【示】示社祈秘祖祝神
票祭禁禍福禦禮【禾】
秀私秋科秒租秤秩移
稅程稚種稱稻稼稿穀
積穩穩【穴】穴究空穿
突窃窒窓窮【立】立章
童端競【竹】竹竿笑笛
笠符第筆等筋箇答策
箇算管篇箱節範築篤
簡簿籍【米】米粉粒粘
粗粟粹精糖糞【糸】系
紀約紅紋納純紗紙級
紛素紡索紫累細紳紹
紺終組結絕絞絡給統
絲絹經綠維綱網綴綻
綿緊緒線締緣編緩緯

練縛縣縫縮縱總績繁
織繕繪繭繰繼纂續
【缶】缺【网】罪置署罰
罵罷羅【羊】羊美羣義
【羽】羽翁翌習翼【老】
老考者【而】耐【耒】耕
【耳】耳耽聖聘聞聯聲
職聽【肉】肉肋肖肝股
肥肩肯育肴肺胃背胎
胞胴胸能脂脇脈脊脚
脫腎腐腕腦腰腸腹腺
膏膚膜膝膳膽臆臟
【臣】臣臥臨【自】自臭
【至】至致臺【臼】臼與
舅興擧舊【舌】舌舍
【舛】舞【舟】舟航般舵
舶船艇艘艦【艮】良

【色】色【艸】芋芝花芽芳苑苗若苦英茂茶草荒荷莊莖菊菌菓菜華萩萬落葉著葬蒔蒙蒸蓄蓮蔓蔭薄薦新藍藏藝藤藥蘇【虍】虎虐處虛虜號【虫】蚊蛇蛙蜂蜜融蟲蠶蠻【血】血衆【行】行術街衝衡衞【衣】衣表衰袂袋袖被袴裁裂裏裕補裝裸製複褒【西】西要覆【見】見規視親覺覽觀【角】角解觸【言】言訂計討訓託記訟訪設許訴診詐詔評詞詠詣試詩詰話詳誅誇誌認誓誕誘語誠誤誦說課誼調談請諒論諫諭諸諾謀謁謂謙講謝謠謹證識譜警譯議護譽讀變讓【谷】谷【豆】豆豊【豕】豚象豪豫【貝】貝貞負財貢貧貨販貫責貯貳貴買貸費貿賀賃賄資賊賑賓賜賞賢賣賤賦質賴購贈贊【赤】赤赦【走】走赴起超越趣【足】足距跡路踊踏蹟蹴躍【身】身【車】車軌軍軒軟軸較載輔輕輝輩輪輸與轉【辛】辛辨辭辯【辰】辱農【辵】辻迎近返迫迭述迷追退送逃逆透逐途通速造逢連週進逸遂過遊運過道達違遙遞遠遣適遭遲遷選遺避還邊【邑】那邦邪邸郊郎郡部郵都鄙【酉】酌配酒酢酬酷酸酔醜醫【采】釋【里】里重野量【金】金釜釘針釣鈍鈴鉛鉢銀銃銅銘鋭鋒鋼錄錢錦鍋鍛鎌鎖鎮鏡鑄鐘鐵鑑鑛【長】長【門】門閉開閏閑間閣閲關【阜】防附降限陛院陣除陪陳陰陵陶陷陸陽隅隆隊階隔隙際障隣隨險隱【隹】隻雀雄雅集雇雌雙雜離難【雨】雨雪雲雰雷電雷震霜霞霧露靈【靑】靑靜【非】非【面】面【革】革靴鞍【音】音響【頁】頂頃項順須頓預頑頒領頭頻題額顔願顚類顧顯【風】風【飛】飛飜【食】食飢飲飯飾養餓餘餅館饉【首】首【香】香【馬】馬馳駁駄駐騎騰騒驅驕驗驚驛【骨】骨髄體【高】高【髟】髮【鬥】鬪【鬼】鬼魂魔【魚】魚鮮鯉鯛鰹【鳥】鳥鳩鳴鶴鷄【鹵】鹽【鹿】鹿麗【麥】麥【麻】麻【黃】黃【黑】黑默點　黨【鼓】鼓【鼠】鼠【鼻】鼻【齊】齊齋【齒】齒齡　【龍】龍【龜】龜

注意

(一)本表にない漢字は假名で書くこと　(二)固有名詞には本表にない文字を用ひても差支ない、たゞし外國(支那を除く)の人名地名は假名書とすること　(三)代名詞、副詞、接續詞、感動詞、助動詞および助詞はなるべく假名で書くこと　(四)外來語は假名で書くこと

(二) 常用略字

(百五十四字、下の小字は字典體)

勧勸　権權　潅灌　歓歡　観觀
沢澤　択擇　訳譯　駅驛　釈釋
変變　恋戀　蛮蠻　湾灣　茎莖
径徑　経經　軽輕　併併　塀塀
瓶甁　餅餅　研研　斉齊　斎齋
済濟　剤劑　残殘　浅淺　賤賤
銭錢　労勞　営營　栄榮　学學
覚覺　挙擧　誉譽　断斷　継繼
歯齒　齢齡　湿濕　顕顯　窓窗
総總　属屬　嘱囑　為爲　偽僞
帯帶　滞滯　参參　惨慘　両兩
満滿　発發　廃廢　鼠鼠　猟獵
乱亂　辞辭　潜潛　賛贊　走走
徒徒　従從　縦縱　悩惱　脳腦

処處　拠據　担擔　胆膽　未來
麦麥　寿壽　鋳鑄　数數　楼樓
楽樂　薬藥　読讀　続續　竜龍
滝瀧　随隨　髄髓　庶鹿　麗麗
聴聽　廳廳　虚虛　戯戲　遅遲
鮮解　独獨　触觸　畳疊　摂攝
虫蟲　蚕蠶　仮假　児兒　刺刻
励勵　嘗嘗　国國　囲圍　円圓
図圖　壱壹　実實　写寫　宝寶

（三）宛字

おぼつかなし　覺束なし
かひ（詮の意の場合）　甲斐
扣控　叙敍　条條　様樣　帰歸
気氣　炉爐　犠犧　献獻　画畫
苗留　尽盡　礼禮　称稱　糸絲
欠缺　声聲　台臺　旧舊　万萬
号號　証證　豊豐　弁辯　逓遞
辺邊　医醫　鉄鐵　関關　双雙
霊靈　余餘　舘館　体體　闘鬪
塩鹽　点點　党黨　亀龜
きつと　屹度
さすが　流石、遉

しまふ　仕舞ふ
せつかく　折角
だけ　丈
だめ　駄目
ちやうど　丁度
ちよつと　一寸、鳥渡
でたらめ　出鱈目
とう〳〵　到頭
とかく　兎角、左右
とて、とても　迚
とにかく　兎に角
なか〳〵　中々、却々
ふるまひ　振舞
はかなし　果敢なし
ほんたう　本當
むだ　無駄
むづかし　六ケし
やたら　矢鱈
やはり　矢張

附録　終

昭和二年五月　編纂
昭和二年六月　發行

非賣品

布哇ホノルル市
編纂兼發行者　布哇中央學院出版部

東京市小石川區丸山町
印刷所　新星社印刷所

Made in Japan.

1979.211.280